

＜会員のひろば＞

東欧 2 国訪問記 — その 1 —

天谷 和夫 (東京都/群馬大学)

1. はじめに

今年 2 月 11 日から 22 日までの 12 日間 CAPS の一員として、環境 NGO との交流・簡易測定法の技術移転のため東欧 2 国ハンガリーとポーランドを訪問した。

記事を理解していただくために、CAPS の活動、訪問の目的について若干説明しておきたい。CAPS とは Citizens Air Pollution Survey の略で、1992 年ブラジルでの地球サミットの際に日本の NGO の CASA (地球環境と大気汚染を考える全国市民会議) が中心となってよびかけつくられたもので、世界の NGO による環境監視の世界ネットワークづくりをすすめる活動を行なっている。当面、簡易測定法を用いて NO_2 や SO_2 の大気汚染や酸性雨、粉じんなどの調査を行なっているが、将来は水質の調査なども行なう予定である。

地球サミットの以前からすすめられていたこの計画の準備段階や現在までに行なわれてきた活動は、測定器材を世界各国の NGO に配付し、現地で測定した大気汚染サンプラーや、採取した酸性雨の試料を日本に送り返してもらい、日本で分析を行ない結果を世界各国の協力 NGO に返すというものであった。

短い経験の中で、送料がかなりの負担 (特に発展途上国) になる。不慣れなため結果の通知が遅れる。測定の負担が一部の人に集中する。などが運動の規模の拡大の障害となっていることがわかり、これを解決する必要があった。一つの方法は使い易く信頼性の高い測定器具を開発し、測定法を確立して技術移転を行なえるようにし、現地の人達が自主的に測定できる態勢をつくることである。地球サミット以降これに努力してきたが、協同総研のメンバーであるエコテックと筑波総研と協力して開発したエコアナライザーは、この線に

沿った研究の成果である。

今回の訪問によって今まで CAPS の活動に多大の協力をいただいた、ハンガリーとポーランドの NGO との交流を深めると共に、各国の NGO に 10 台ずつエコアナライザーを寄贈し、技術移転をすることができた。協同総研の国際貢献の一つといえる。

なおこれらの費用は環境基金によりまかなわれた。

2. わかりやすいウィーンの

大気汚染表示板

目的地に入る前にウィーンで 1 泊した。ホテルのすぐそばの建物に発光ダイオードを用いた小さな大気汚染状況を示す表示板があった。数種の汚染物質の濃度が棒グラフで示され、縦軸に「警報」レベルから「非常にきれい」という数段階のレベルが示してあり、どの汚染物質がどの程度かが一目でわかるようになっていた。表示板の上側は電光ニュースのように各汚染物質の濃度を数値で説明していた。

東京の渋谷駅の表示板は各汚染物質が一つずつ数字で表示され全体がわかりにくいのと比べて非常にわかり易く感じた。設計する人が一般市民にどうすればわかりやすく知らせることができるかと考えるセンスの違いではないかと思う。

ホテルの 3 階とホテル前で NO_2 をエコアナライザーで測定した。それぞれ 0.029、0.019ppm (10 時間値) であった。

3. ハンガリーへ

初日 NGO と交流、カプセル設置

ハンガリーではブタベストに 1 泊 2 日滞在した。

この国では小学校の教師のグループが、これま

でCAPSの活動に積極的な協力をしてくれたが、今回の訪問で初日これらの小学校のいくつかを訪問し、同時に大気汚染測定用のカプセルを各小学校に設置し、翌日のセミナーでその結果を発表するための準備を行なった。各小学校では、教師や児童が熱烈に歓迎してくて、わずかな時間であったが活動紹介、交流を行なった。

翌日カプセル回収、セミナーで結果発表

翌日早朝、現地の市の職員の協力を得て、昨日設置したカプセルを回収にまわった。測定時間は十数時間であったが、最高0.030、最低0.003ppmであった。

セミナーでは団長の挨拶、日本での活動紹介、CAPS調査活動の報告、測定法の説明、ブタベストでの今回測定結果の発表などを行なった。またセミナー会場でエコアナライザー10台を現地NGOに寄贈することを発表した。

ブタベストでは大気汚染状況を新聞に毎日公表 情報公開は日本より進んでいる

カプセルを回収する時、現地の環境担当公務員の協力で案内してもらった。その間いろいろハンガリーの事情について聞くことができた。

日本では各自治体が環境庁のマニュアルに従って速報値の公表を行っていない。この点ハンガリーではどうなっているかに関心があったので、まず聞いたのは大気汚染データの情報公開についてであった。ブタベストには数ヶ所の自動測定局があるが、毎日、新聞にその結果を発表しているとのことであった。実際にその新聞を買って見せてくれたが、天気情報と一緒にSO₂、NO₂、CO、SPMのデータがのっていた。またいくつかの場所には電光表示板があり、その場所の大気汚染値を表示していた。

自由化、失業増大、貧富差拡大

環境問題と直接関係はないがハンガリーの現在の最大の問題は体制が変化して過渡期にあり、模索の時代であるという。

失業率が国全体で20%、場所によっては100%の所もあるという。地方の小さな町村では以前なら利潤に無関係に国が交通手段を確保していたが現在は利潤がないとの理由で鉄道を廃止され、陸の孤島となっている所があり、大都市との交通が断たれ、ここでは仕事が成り立たず、このような所では町全体が失業状態という。金持ちは自動車ですぐ都市に行けるが、貧乏人はそれができないという。先日も鉄道の復活を求めて集会とデモがあったという。

自由化のかかえる複雑な問題があることがわかった。

衛生研究所訪問、標準ガスで測定器を定期点検

セミナーの終了後、寄贈する測定器の使用法を現地の人達に実地に説明し、他の人は衛生研究所を訪問した。

衛生研究所は環境の測定業務の一部を担当しており、標準ガスを用いて定期的に測定器をチェックし、信頼性を確保するための活動を支えているという。

日本では標準ガスの供給体制ができていないという理由で、本来行なわなければならない標準ガスによる大気汚染測定器の定期点検を行っていない。日本の技術レベルは高いというが、このような点は全くお粗末である。

その日の夕方、鉄道でポーランド、クラコフに向かった。